

事業計画の概要：頭部の保護帽及び保護インナーの製作・販売

～機能性とデザインを高度に両立した、強くて優しい保護帽～

1. 転倒・転落により頭部を損傷して命を落とす人は全国で約3600人（平成 17年）、死に至らずとも転倒によって怪我をしている人は相当数に上ると想定される。また、冬季の雪道では転倒事故の危険性が高くなり、札幌市では約900人（平成18年度）が転倒を原因として救急車で搬送されている。特に幼児・児童・生徒や高齢者は転倒による怪我が懸念されている。加えて、軽作業を伴う事業所においては、法令上ヘルメット着用の義務づけが無い場合でも、従業員等の頭部保護への関心は高い。一般的に頭を守るためヘルメットを着用するが、殆どのヘルメットは硬質であり、日常生活で使用するには適さない外観の上、通気性や装着感は高くない。現状、日常的に頭を守るものは普及していない。
2. このような課題を解決するため、(株)特殊衣料は、札幌市立高等専門学校 森田助教授（現(有)エル・アイ・シー代表/東京造形大学准教授）等との産学官連携により、従来からてんかん症状を持つ方の頭部保護のために製作していたヘッドギアを、ユニバーサルデザインの視点を取り入れて、頭部保護という機能性と高いファッション性を両立させた保護帽「アポネット」を開発。アポネットは機能性とデザインの両面が評価され、2003年度に（財）日本産業デザイン振興会のグッドデザイン賞を受賞している。
3. 新連携計画では、大量生産の技術とノウハウを持つモリト(株)と連携して、保護インナーの生産を、従来の手縫い生産から、金型を使った大量生産に移行することにより、生産コストの低減を図る。また、アポネット以来、保護帽の開発に協力し、デザインの豊富な知見を持つ(有)エル・アイ・シーが、強度とデザインの融合をサポートする。素材と製法に関しては、特許を出願中である。なお、本製品に使用している衝撃緩衝材EVAは、①厚さが4～5mmで色々な帽子の中に入れることができる、②三角形の穴が7～10mm間隔で型抜きされ通気性が高い、③通常の野球帽と比較して約5倍の衝撃緩衝能力等の特徴がある。
4. 幼児・児童・生徒や高齢者、軽作業を伴う事業所等をターゲットとして、保護帽及び保護インナーを販売する。展示会や公的常設展示場への出展、インターネット・DVDの作成等による広報・普及を行うほか、モリト(株)の全国的な販売ルートを活用しつつ、学生服メーカー、GMS等を通じて販路開拓を行う。

＜保護インナー（EVA）の特徴＞

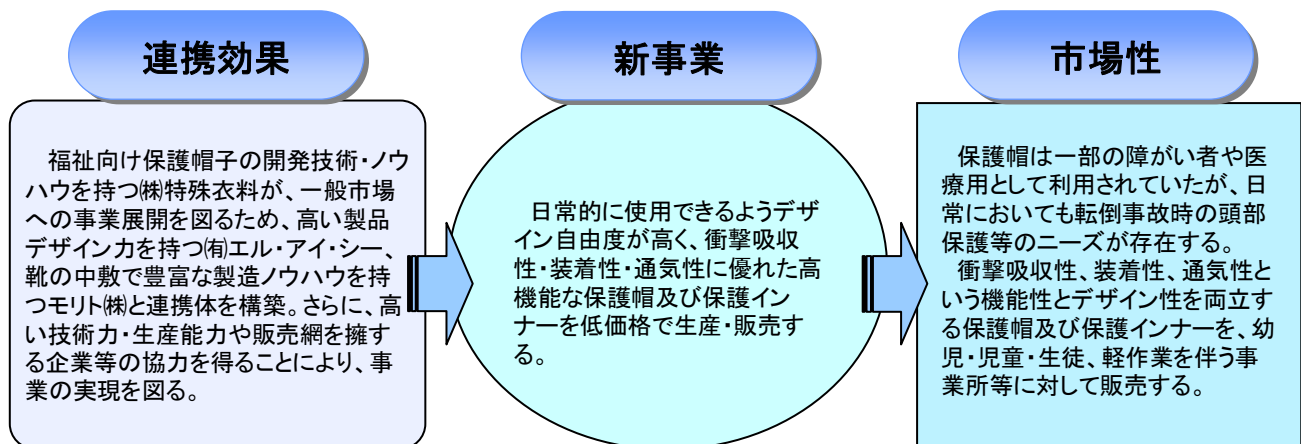
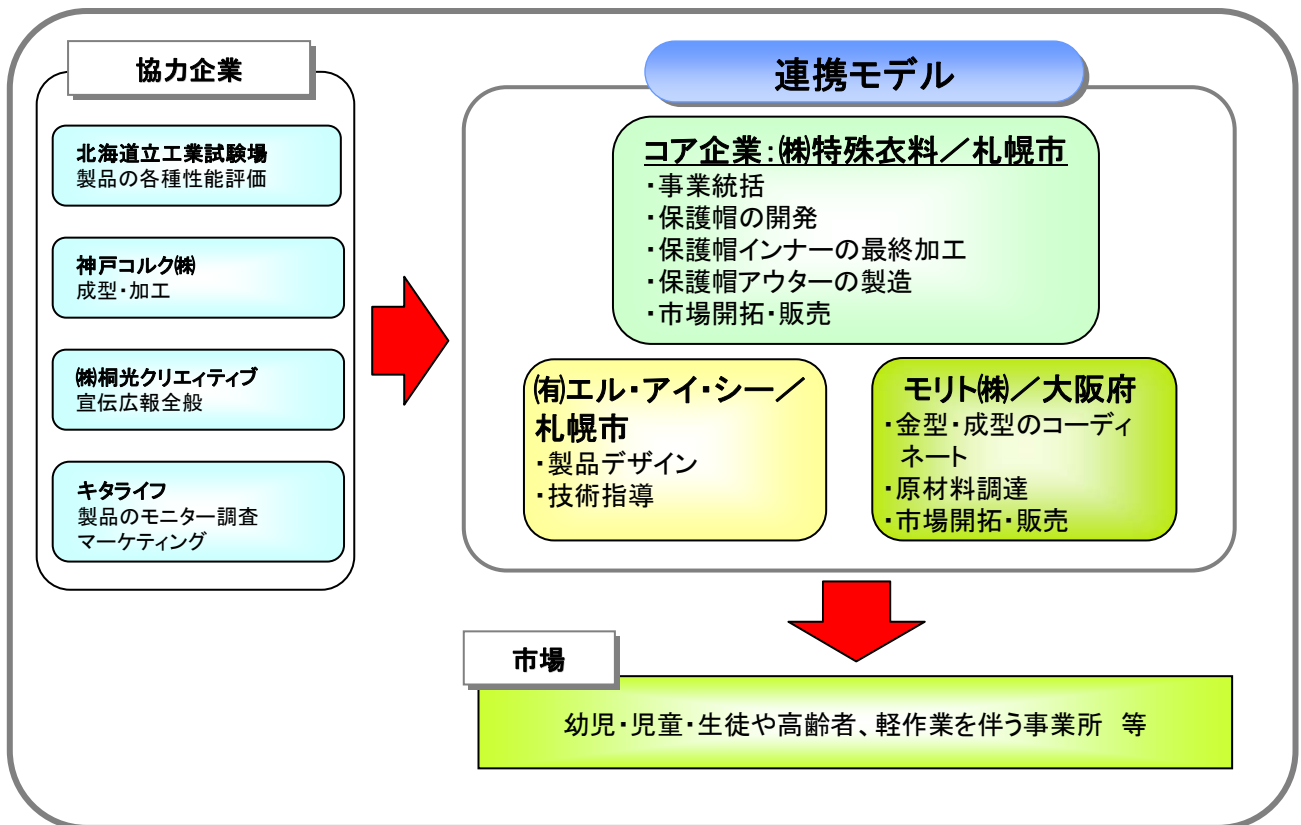
- ①安全性、信頼性：公的試験研究機関でデータを取得・検証
- ②使用感：軟質系の素材であり、通気性・装着性に優れている
- ③デザイン自由度：好みのアウター（帽子）に装着可能

→ 衝撃試験（(財)日本車両検査協会東京検査所）



様々なデザインの保護帽の製作が可能





支援メニュー

【支援金融機関】 中小企業金融公庫 北海道銀行

【活用(予定)支援メニュー】 ①補助金 ②設備投資減税 ③政府系金融機関の低利融資

④信用保証の特例 ⑤中小企業投資育成会社による投資

コア企業の会社概要

企業名・代表者	株式会社特殊衣料 代表取締役社長 池田啓子	
所在地	北海道札幌市西区発寒14条14丁目2-40	
創立	昭和56年10月	
資本金・従業員数	4,000万円	125名
TEL/FAX	011-663-0761	011-663-0955
e-mail	info@tomoni.co.jp	
URL	http://www.tomoni.co.jp	